

助成事業実施報告書

団体名.....広島市防災士ネットワーク.....

代表者・役職名 氏名 代表世話人 柳迫長三



1、助成プロジェクト名

避難所運営プロジェクトチームの発足

活動地域：中国地区、四国地区、九州地区、近畿地区の被災地

2、実施団体の概要（創設の経緯、創設時期、会員数など。180文字程度まで）

広島市防災士ネットワークは、平成26年1月結成し、平成29年10月現在90余名の防災士が活動しています。年々防災士が増加することから、相互交流を図りながら、地域の自主防災組織が円滑に活動できるよう支援しようと設立したもので、平時は防災講習会や研修会を企画し開催する。また、災害発生時は救援・復興活動を支援する。

3、プロジェクトの目的とその背景 250文字程度まで

毎年のように全国各地で大災害が発生し、そのたびに多くの被災者が厳しい避難所生活を続けている。しかし、避難所運営は、経験や研修をしていない被災地区が多いことから、地域住民やリーダーに困難を押し付けている現実がある。さらに地元リーダーが被災すると避難所運営は行政頼みとなる。

当広島市防災士ネットワークは、平成26年8月20日の「広島豪雨災害」で、避難所運営を経験したことから、「避難所運営」に特化した「プロジェクトチーム」を編成し、被災地でのコミュニティを重視しながら心身ともに早く復旧できるよう支援していきたい。

今回プロジェクトチーム発足により、専門家(大学教授)から助言を受ける計画と併せ、よりスムーズな進行と広島豪雨災害で受けた恩返しを企画しました。

4、プロジェクトの内容 300文字程度

①プロジェクトチームの発足 ②事前研修プログラムの作成と実施 ③被災地視察と避難所運営に関する専門家(大学教授)からのアドバイスを受ける。④広島市内で避難所運営訓練を実施する の4項目を計画する。

さらに、中国・四国・九州・近畿地区で発生した場合、現地へプロジェクトチームを派遣し、避難所運営の支援を行う。そのため事前の研修・訓練が必要で、専門家のアドバイスを受ける仕組みづくりと、必要資機材の整備を進める。

5、プロジェクトの実施で得られた「結果」、「成果」、「社会的変化」などの「効果」300文字程度

「結果」平成30年度安佐北区防災訓練を安佐北区倉掛小学校体育館で実施。避難所運営訓練には地元住民約450名が経験。訓練要領は、参加者が訓練テーマ別ごとに設定された会場を巡回しながら体験型で研修した。

「成果」想像していなかった平成30年7月豪雨災害が発生し、私達の地域も被災した。広島県内の被災地では避難所が開設され、私達は各避難所を巡回しアドバイスをを行い、本助成事業がもう少し早く立ち上げればよかった。と実感した。訪れた避難所では、私達のアドバイスが大変喜ばれた。3月1日10時から「指定緊急避難所運営報告会」を開催し、広島市安芸区矢野南小学校と三原市沼田西小学校の運営責任者の発表を行っていただき、兵庫県立大学の阪本准教授にお越しいただき、

避難所運営の感想と今後の取り組みについてアドバイスを頂いた。

「社会的変化」避難所運営の中核となる3名のアドバイザーを指名し、被災地を巡回したことから、被災地の実情、避難所運営の難しさ、さらに行政とのかかわり方などこれまで想像していなかった現実が浮き彫りとなった。そこで指定緊急避難所運営報告会を開催し地域で活躍する防災リーダーへ情報提供した。今回被災地で避難所運営をしてみて一番大事なことは、個人的な感情を入れた被災者対応は決して行わない。被災者も他の被災者と話し合い、互いに理解し合うことであった。